OSAに対する診断・治療のOutline

~PSG評価から舌下神経刺激装置植込術まで~

奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科

上村裕和





• 日本国内における睡眠時無呼吸症候群 (SAS)

2,200万人(30~69歳人口の32.7%)

中等症・重症SASは940万人(30~69歳人口の14.0%)と

推計される。

CPAP治療を受けているのは、50万人程度



睡眠障害が誘発する交通事故による経済損失



2,413億円

睡眠障害が誘因となって引き起こされる、 生産性低下などによる社会的損失

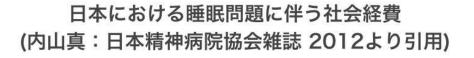


推計年間3兆665億円









閉塞性睡眠時無呼吸症(OSA)の症状と診断

- ・日中の強い眠気、居眠り
- ・いびき
- 中途覚醒(目が覚めやすい) 眠りが浅い 苦しくて目が覚める
- ・起床時に頭痛がある
- 疲労感、倦怠感
- ・ 血圧や血糖値が高い など





PSG (polysomnography)

Somnoとは"眠り"を指し、Somnus(ラテン語)に由来します。

診断基準の一つの 指標として

AHI がある。





睡眠時無呼吸の定義

医学的には、

睡眠中に10秒以上息が止まる状態を

無呼吸と定義されている。



<u>閉塞性</u>睡眠時無呼吸症の診断基準 (AHI)

• 成人

軽症: **5** < AHI < 15

中等症: 15 < AHI < 30

重症: 30 <



閉塞性睡眠時無呼吸症の診断基準 (AHI)

• 成人

• 小児

軽症:

5 < AHI < 15

軽症:

1 < AHI < 5

中等症:

15 < AHI < 30

中等症:

5 < AHI < 10

重症:

30 <

重症:

10 < AHI

* 夜間突然死の発生リスク 2.6倍

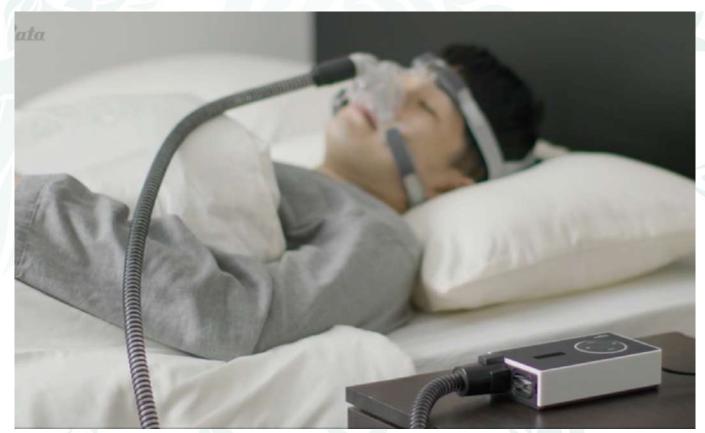
*AHI>20:8年後の生存率が63%にまで低下



CPAP

(Continuous Positive Airway Pressure; 持続的陽圧呼吸療法)

20≦ AHIで適応となる





OSAに対する手術治療

- 鼻手術
- ・咽頭レベルでの手術

Suture Suspension Technique, アデノイド切除術, 口蓋扁桃摘出術

・舌根部レベルでの手術

舌扁桃切除術,舌正中切除術 (Robotic Surgery)

・顎顔面手術

Genioglossal Advancement (GA), Maxilo-Mandibular Advancement (MMA)

• 舌下神経刺激療法 (HNS): STAR Trial などでの効果・安全性の報告

舌下神経電気刺激療法

Nara Medical University
Department of ORL-HNS

- CPAP 不 忍 容 の 閉 塞 性 睡 眠 時 無 呼 吸 症 (OSA) に 対 す る 新規手術治療として舌下神経電気刺激療法(以下, HNS)が 保険適応となった. 本小型デバイスシステムは、終夜にわたり 呼吸サイクルを検出し,吸気時にのみ舌下神経に電気刺激を与え、 舌根を持ち上げて気道を開大するように作動して患者の快適な 睡眠へ繋がることが期待される.
- ・ HNSの概要について頭頸部外科医の立場から解説する.

Inspire デバイス

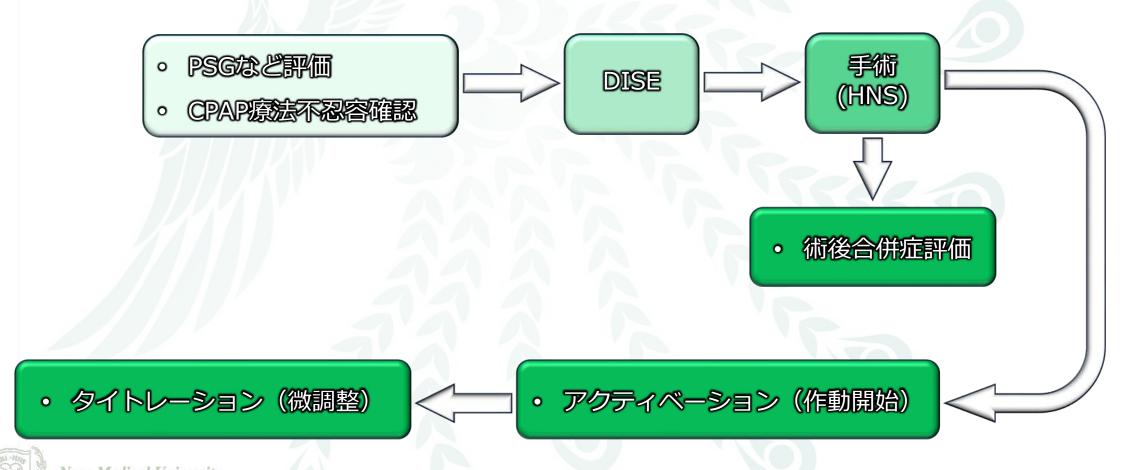






資料提供: Inspire Medical System Japan

HNS適応決定から手術・術後管理



》Nara Medical University Prug-Induced Sleep Endoscopy)

HNSの適応

- 18歳以上であること
- BMIが30未満であること
- CPAP療法の継続困難であること
- 無呼吸低呼吸指数 (AHI) が20以上の<u>閉塞性</u>睡眠時無呼吸症であること
- 扁桃肥大等の解剖学的異常がないこと
- 薬物睡眠下内視鏡検査 (DISE) で不適応と診断されていないこと
- ・中枢性無呼吸の割合が25%以下であること

舌下神経刺激装置による気道開存



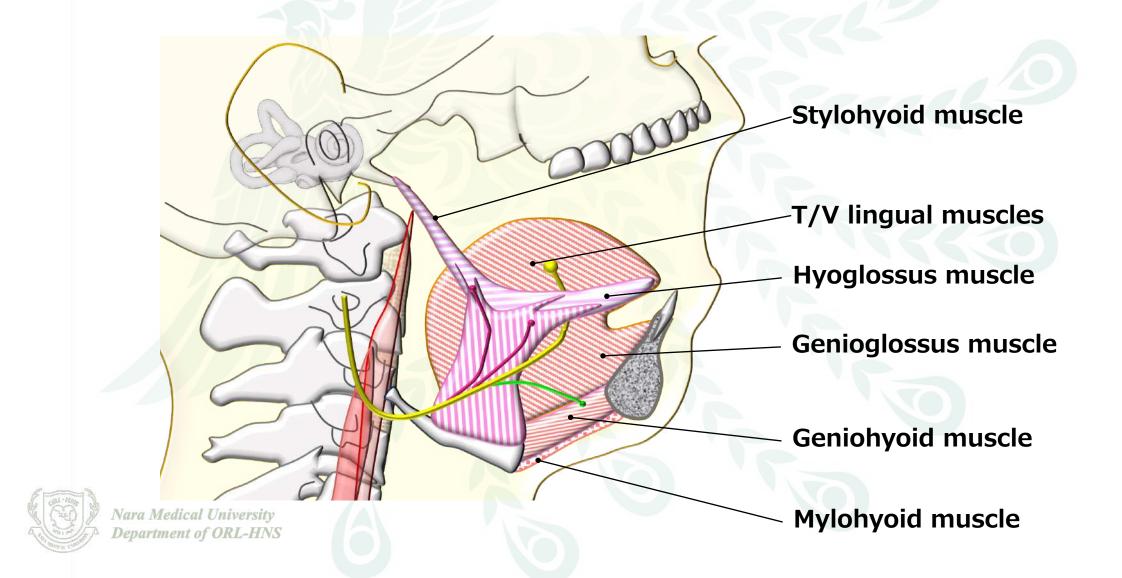
舌下神経刺激装置で吸気相に合わせて挺舌させる.



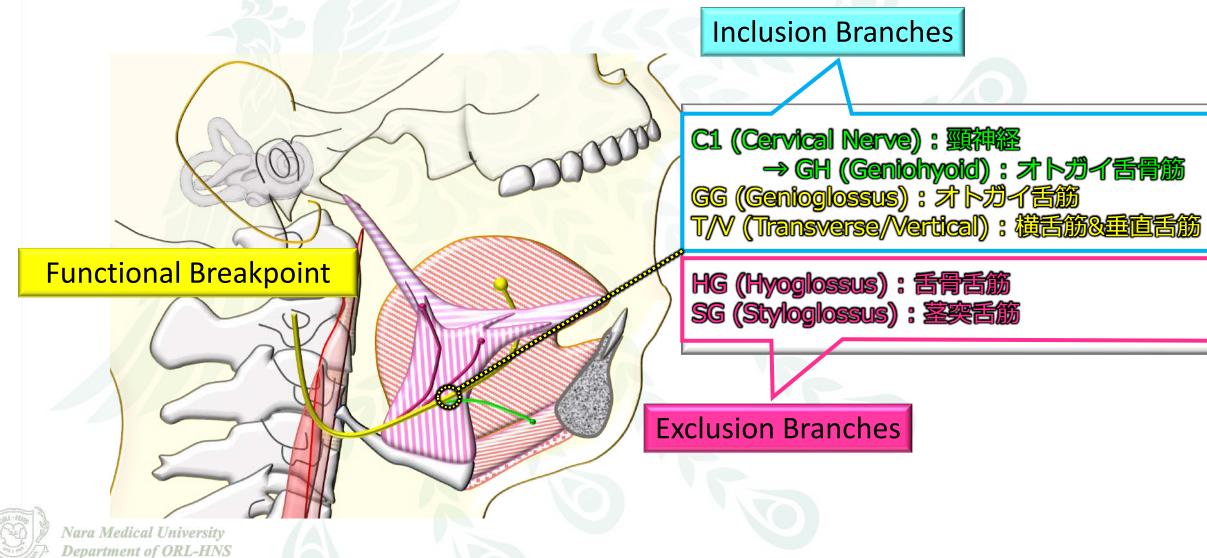
- ・ 術中に舌下神経に障害を与えない.
- ・刺激装置の刺激リードとセンンシング・リードを 適切に装着・挿入し固定する。



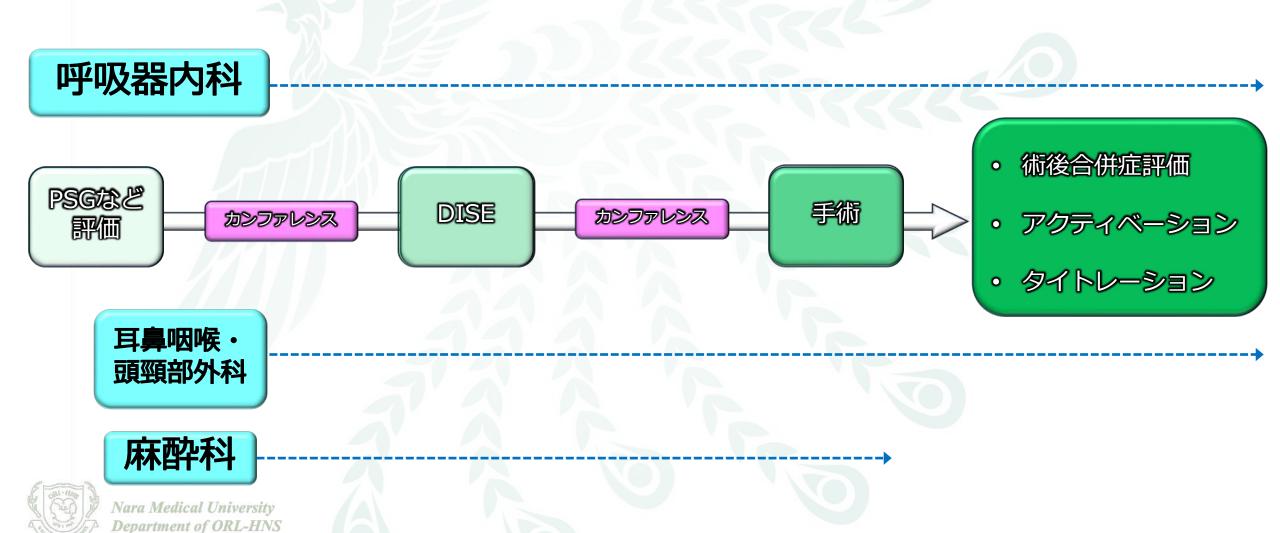
舌下神経の至適刺激位置



舌下神経の至適刺激位置



奈良県立医科大学におけるHNS診療体制



まとめ

- OSAの診断、随伴する疾患、およびその治療法の概要を示した。
- 新たな治療法であるHNSの適応から手術、外来管理の流れを外 科的視点を中心に解説した。
- ・ 当施設での特徴ある診療体制(呼吸器内科・頭頸部外科・麻酔 科のコラボレーション)を活かして、安全かつ安定した手術を
- 提供し、OSA患者のQOL向上に努めたい.